

私たちが
やっているのは
スマート農業って
いうの

少人数で農業を
効率よく進める
このシステムの導入が
農業を担う人の
高齢化など
今日日本が抱える
農業の様々な問題の
解決につながる
と期待されているのよ

最先端の
農業技術を
活用すれば
効率的で大規模な
農業ができるの

農業技術の
発達とともに
基本となる
区画が大きく
なっていたのよ
サツカーのコートは
75a^{アール}あるのよ



乾田馬耕の時代は10a^{アール}区画



戦後のほ場整備で30a^{アール}区画



現在は、スマート農業を効率よくするため1ha (100a)^{アール}以上も

技術の進歩と
田んぼの区画は
切り離せない
関係があるん
ですね

大区画化で
米の生産量は
アップしたし
生産コストは
低減したけど

食生活が
多様化して
お米を食べない
人が増えているの

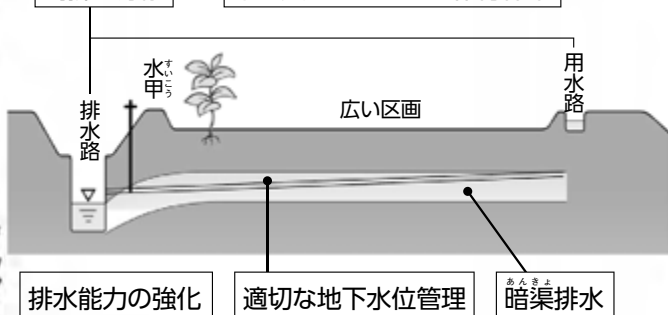
一方で
麦や大豆は
ほとんどが
海外輸入なんだ

これらは湿害に弱くて
雨が多い日本では
栽培が難しいんだよ

整備された汎用水田^{はんよう}

米・麦・大豆などの作付体系

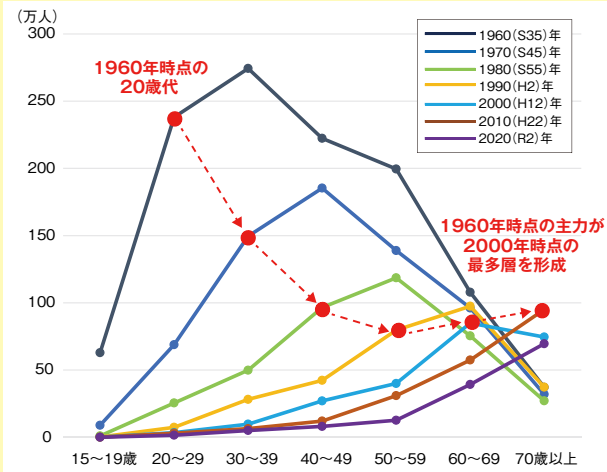
用排の分離



そこで
ほ場整備で
大区画だけじゃなくて
地下に「暗渠」^{あんきょ}を埋めて
排水性を改良するの
こうすれば
麦や大豆などの
畑作物も栽培できる
汎用水田^{はんよう}になるのよ

※暗渠とは、地中に埋設した水路のこと。そこに地上からの浸透水^{しんとうすい}を流して排水することで、水はけを良くする方法を「暗渠排水」^{あんきょ}といいます。

※ 農業者数の推移



農業者の減少と高齢化

日本の農業従事者はおよそ60年の間に約6分の1に減少し、高齢化が進行しています。2020年は4分の3の農業者が60歳以上であり、今後さらに急激に農業者が減少していく見込みであるため、少ない農業者で農地を守るための整備が必要となります。

※基幹的農業従事者数の推移を表しています。

「基幹的農業従事者」とは、ふだん仕事として主に自営農業に従事している人をいいます。





田んぼのさまざまな機能

田んぼには、食料の生産だけではなく、多様な生き物を育んだり、雨水を貯留して洪水を防いだりするなどの、さまざまな機能があります。

洪水防止機能

田んぼは雨水を一時的に貯めることができ、洪水を防止・軽減する働きがあります。この機能を強化する「田んぼダム」という取組が全国各地に広がっています。



生態系保全機能

田んぼはカエルやドジョウなどのすみかとなり、生物を保全する働きがあります。兵庫県但馬地域では、減農薬など環境負荷の低減に地域ぐるみで取り組み、安全なお米と野生のコウノトリを同時に育んでいます。



「コウノトリ育むお米」



ご先祖様がつくって
長い長い時間をかけて守ってきた
田んぼだもんね
ずっと変わらずにあってほしい

